

第七回 花遊歩

牛に引かれて善光寺参り



「長野をより元気にしたい」
 「着物というツールを通して
 賑わいの街づくりを図ろう」と
 NUPRI長野都市経営研究所が始めたイベント
 「花遊歩 牛に引かれて善光寺参り」が
 今年も行われました。
 7回を数える今回は41名が参加。
 10月下旬の日曜、和装の女性たちが
 善光寺表参道を歩き、
 着物のよさを語り合いました。

NPO法人 長野都市経営研究所 NUPRI

開催日/2018年10月21日(日) 参加者/41名

主催/NPO法人NUPRI長野都市経営研究所 後援/長野市、善光寺、長野商工会議所、中央通り活性化連絡協議会、JR東日本長野支社
長野県 地域発 元気づくり支援金活用事業



秋 晴れの

TOiGO広場に「花遊歩」出発式(13時30分/挨拶:加藤久雄長野市長、北村正博長野商工会議所会頭/進行:鈴木隆治実行委員長)後、参加者:スタッフ(和装)が新田町交差点北(中央通り車道)に移って整列。牛に引かれて善光寺を目指すべく出発しました。

当日の中央通りは10時から第2回「NAGANOのあつたかま」ころ手づくり通り@表参道もぜんマルシエ」が開催中。秋の信州を訪れた観光客や休日を楽しむ市民がそぞろ歩きしている歩行者天国の中心を、黒牛(3代目杏花ちゃん。雌牛2歳千曲市出身)、着物の女性たち、両者を結ぶのは紅白の綱、という華やかな一団が進んでいきます。

表参道を牛に引かれて善光寺参り



秋の趣旨を拡声器でお知らせします。

花遊歩も数を重ね、毎回参加を楽しみにしている方、前回初参加して楽しかったから友人を誘った方、誘われて初めて参加の方、と小学生からご高齢の方まで広い年代層も花遊歩ならでは。参加条件は「着物を着ること」だけですので、着物の種類は小紋袖、振袖、羽織:帯結びもお太鼓、文庫、角だし:と誰一人同じ装いがありません。ギヤラリーにも分かるようで「どういう人が歩いているのかな?」「着物の着方コンテスト?」「七五三? まさか!」と若い人たちの声。中高年からは「やっぱり着物はいいもんだね」「あつても最近では本当に着てない!」そんな声も耳に入ってくるのでした。

歩行者天国は大門南交差点まで、次の1区画は歩道でマルシエ・ブースがなくなった分、ウィンドーや花壇の山野草が目に入るようになりました。ムラサキシキブの紫色の玉が秋を告げています。

大門の横断歩道を渡って善光寺境内に入ると途端にさすが観光地の人混み。海外旅行者も多く、こちらは牛もさることながら着物姿の一団に「ビューティフル」とカメラを向ける女性、男性。

仁王門はこれまでと何か違う雰囲気!? 門再建百年を迎えるにあたり、壁・天井に重ねられた千社札を先月剥がしたところなのでした。仲見世通りを抜け、駒返り橋(知る人ぞ知る

花遊歩

頼朝故事)を通過すれば終着点の三門、その先には本堂が見えます。一同を迎えてくださった善光寺の小林順彦寺務総長から答礼のご挨拶を頂戴し、善光寺参りを果たし終えました。

東庭園 / 大本願

これより「花遊歩」後半。境内東庭園での記念写真に移ります。プロカメラマンの手によつて一人ひとり一枚に収まるこの企画は参加者に毎回大好評。皆さん今日のためにどんな着物を帯をと悩んで(悩むのも楽しみのうち)の総仕上げですからね。自分の番が来るまで着物談義が弾みます。今回も参加してくださった年違いコンビ

(伯母・小学生の姪御さん)の「子ども着物」は花柄銘仙。骨董市で自分用に求めたものを姪御さんに合わせて肩上げし、丈はおはしよりし、シゴキふうに帯揚げを結んで垂らしたのが工夫アリで◎。これまで靴だった履物は初めて草履で歩ききった由。順次撮影が終わる次第、大本願へ移動。



じていて不思議)等。また、質問に答えて「両親の話もしてくださいました。

「花遊歩」締めくくりは赤沼真知子さん(イトトヨシ主宰/長野市民新聞に着物暮らし記事を連載)の司会でワークショップ。まずは自分と着物との出会い:海外に行つた際、パティーで他国の人はそれぞれ民族衣装を着たのに自分は...。帰国後、努めて着るようになつた。続いて、参加者全員から本日の着物の由来等を一問一答一敬遠してきた着物だが、着ていて苦しくなく案外歩けた/結婚時に母親が用意してくれた着物を初めて袖を通せ、親の気持ちを思いやつた/義母から譲り受けた着物/ネットで競り落とした帯等々、皆さんそれぞれの着物・帯のストーリーを語つて、尽きることがありませんでした。

着物が着られなくなった理由の一つが着ていく機会がない! 「花遊歩」がきっかけとなつて、長野の町を着物で気軽に歩かれる方が増えることを願っています。

大本願寿光殿2階。鷹司誓玉尼公上人から「日本の伝統である着物を愛し、着てほしい。毎年、皆さんの着物姿を見るのが楽しみ」とお話をいただきました。展示:御所より拝領したもの、あるいはご自身の市松・紐文様着物をリメイクしたテーブルクロス(後年趣味となった組紐に通

